

テーマ:『 市街地の自然を生かした理科教育 』

厚木市立 厚木小学校

Tel. 046-221-2017

担当者: 深瀬 篤



#### ■実践内容:

本校は厚木市の市街部に位置するが、校地内には、樹木や草地も多く、草花等の栽培も盛んで、校舎の周りには季節ごとに多くの花を見ることができる。そんな環境を、理科学習、特に生物分野の学習に生かせるよう取り組んできた。

- ・ 3年生…「チョウをそだてよう」「こん虫をしらべよう」→チョウをよぼう、こん虫をよぼう
- ・ 4年生…「生きものを調べよう」→木の花、木の実で季節をみよう
- ・ 6年生…「生き物と養分」→落ち葉と土から生き物のつながりを見てみよう

#### ■実践成果:

生物や環境について考え、理解を深めるには、やはり身近にいろいろな生き物をおき、それに触れることが一番だと思われる。多くの草花や樹木に囲まれ、そこに訪れ、あるいは住まう昆虫や鳥を観察し、また季節ごとの移り変わりを体感することが厚小ではできる。モンシロチョウをはじめ、いろいろなアゲハチョウ、タテハチョウやシジミチョウ、オオスカシバまで、たくさん花や木があることによって思いがけず多くの種類のチョウが校庭に来ていることを知ることができた。またビワ、スモモ、ザクロ、マテバジイ、ヒメリンゴ、ユズ、イチヨウ、イチジクなど、時には木の実を味わいながら、校庭の木々の季節の移り変わりに触れることができた。その実や草花をもとめて、多くの昆虫や鳥が訪れることがわかると、季節による生き物の移り変わりとともに、いろいろな生き物の相互のつながりも見えてきた。木の実からは幼虫が顔を出して驚かせてくれるし、草花には幼虫をさがしているいろいろなハチが、成虫をさがしてカマキリやたくさんのクモがやってくる。豊富な落ち葉や草花の根元からは、たくさんのミミズやダンゴムシ、ヤスデなどが出てくる。植物も含め多くの生き物の関わりが、体験を通してよく理解でき、自分たちをとりまく環境についても意識を高めることができた。また、逆に、自分の学校の校庭を、多くの生き物が見られるよい環境の場として見直すことができてよかったと思う。

#### ■実践ポイント:

理科の学習のための栽培活動だけではなく、いろいろな植物を栽培しているので、ほとんど一年を通して多くの花が見られ、それを求めて昆虫がやってくるので、チョウの学習や季節と生き物の学習にはとても役立っている。実のなる木、花の咲く木が多く、サクラだけでなく、いろいろな樹木に親しみ、季節の移り変わりを体験を通して感じ取ることができた。植物を栽培することは土をよくすることでもあるし、落ち葉のたまる場所もあるので、地面や土の中をすみかにする生き物が豊富で、足下から生き物のつながりを考えていくことができた。教師より子どもたちの方がいろいろなことに気づき、教えに来てくれる。それを聞きながら、子どもたちが、草花をはじめ身のまわりの生き物に親しんでくれていることが実感できてうれしかった。